



Title	懷徳堂研究 第1号 編集後記
Author(s)	
Citation	懷徳堂研究. 2010, 1, p. 178-179
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/24670">https://hdl.handle.net/11094/24670</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 編集後記

平成十一年（一九九九）、大阪大学文学部は、附属施設として「懷徳堂センター」を開設した。文学部内に散在する貴重資料を集約し展示しようというのが主な目的であった。

しかし、展示のための適切なスペースが部内に得られなかったことから、このセンターは事実上、懷徳堂のデジタルコンテンツを展示解説し、懷徳堂研究の拠点として活動するという性格を色濃くしていくことになる。また、大阪大学の創立七十周年記念事業（二〇〇一年）で制作された懷徳堂学舎のCGや貴重資料のデータベースが注目を集め、学内外からの取材を受ける機会が多くなった。また、大阪大学附属図書館からも、資料の調査・出納に関して協力を要請されることしばしばであった。そうした取材や調査に対応してきたのが、このセンターである。

こうしたセンターの実態を踏まえ、平成二十一年（二〇〇九）五月、「懷徳堂センター」が改組され、新たに「懷徳堂研究センター」が発足した。

その目的を、センター規定はこう明記する。「懷徳堂

研究センターは、文学研究科の教育研究理念に沿って、懷徳堂に関わる調査・研究・広報の拠点としての役割を果たし、これを通じて本研究科の発展に寄与することを目的とする」と。

その目的を達成するために、以下のような業務を行うこととした。

- (1) 懷徳堂に関わる調査・研究、資料の収集・作成（デジタルコンテンツを含む）
- (2) 『懷徳堂研究』（年一回定期）、パンフレット、ニューズレター（不定期）等の広報媒体の編集・刊行
- (3) 懷徳堂研究の総合サイト「WEB懷徳堂 (<http://kaitokudo.jp/>)」の管理運営
- (4) 学内外における懷徳堂資料の展示、講演会などの開催
- (5) 懷徳堂記念会の事業に関わる資料調査等の協力
- (6) 本学附属図書館および総合学術博物館の業務に関わる懷徳堂関係資料の調査等の協力

このうち、(2)の『懷徳堂研究』は、旧来のセンターが刊行してきた『懷徳堂センター報』を継承しつつ、装いを新たに創刊することになったものである。『懷徳堂センター報』は、センターの活動報告と論考で構成されており、論考はいずれも学術的に高い価値を持つもので

あったが、「センター報」という名称が、広報誌や内部雑誌ではないのかという印象をも与えてきた。そこで、『懷徳堂研究』は「研究」を全面に押しだし、全国で唯一、懷徳堂の研究を専門に取り扱う学術雑誌として創刊されたのである。

幸い、創刊号は多くの研究者のご支持により、貴重な論考を揃えることができた。第2号以降も、各位のご教導のもとにその使命を果たしていきたい。

（懷徳堂研究センター長 文学研究科教授 湯浅邦弘）